

福岡市設計測量業協会主催

6月3日は「測量の日」。記念イベントとして第23回「あそこまでなんぼ」を開催



距離と面積測定で実力を発揮した福岡国土建設専門学校のみなさん

(一社)福岡市設計測量業協会(福澤一博会長、福岡市中央区)は3日、「測量の日」の記念イベントとして、第23回「あそこまでなんぼ」を天神中央公園(福岡市中央区天神一丁目)で開催。イベントには、協会関係者を含め、一般の参加者も歩測を楽しんだ。また、福岡国土専門学校の生徒100人も加わり大いに盛り上がった。参加人数は距離当てクイズ:129名、面積当てクイズ:111名。

福澤会長は「測量の日は、昭和24年6月3日に測量法が制定されたことに基づいています。ひとりでも多くの人に、測量の重要性を理解していただくために、このイベントを開催して23回を迎えました。歩測を体験することで、測量や地図の大切さ、面白さを体感していただきたい。また、これを機に測量に興味をもってほしい」とあいさつ。青空が広がる中、井野測量委員の掛け声とともに、イベントはスタートした。

歩測は歩くだけのシンプルな測量法だが、「自分の歩き方がわからなくなった」と歩幅の維持に苦戦する人が続出。優勝は福岡国土建設専門学校生徒のタマン ビジョエさん(ネパール出身)。「優勝するとは思っていなかったのがうれしい」とコメント。また、歩測と面積部門で好成績を上げた女性は、毎年参加する強者。「歩幅は誰でもできますが、面積の場合は計算をしっかりとすることが大事です。去年、やり方を自分なりに学習したので、今年は狙っていました」と笑顔で話した。



大人も子供も一歩ずつ



優勝したタマンさん